目　次

略号一覧 vi

第 1 章　序　論 1

1.　はじめに 1

2.　移動をどう表現するか 2

3.　本書で扱う移動事象の表現 3

4.　第二言語習得研究と移動表現 4

5.　言語教育における本書の意義 6

第 2 章　移動表現の類型論とその研究方法 9

1.　移動表現の類型論 9

1.1　移動事象に関わる諸概念 9

1.2　経路の表示位置と移動表現の類型論 10

1.3　経路とダイクシス 13

1.4　表示頻度の類型論 14

2.　研究対象言語の移動表現 16

2.1　日本語の移動表現 16

2.2　英語の移動表現 19

2.3　ハンガリー語の移動表現 21

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

3.　移動表現の第二言語習得 25
3.1　第二言語習得 25
3.2　移動事象表現の第二言語習得研究 28
3.3　本研究の調査 33

第 3 章　調査方法と日本語・英語・ハンガリー語母語話者の移動表現 37
1.　移動表現プロジェクト 37
1.1　移動表現プロジェクトの主旨 37
1.2　対象とする移動事象 38
2.　言語産出実験について 43
2.1　実験参加者 43
2.2　実験の方法 44
3.　分析方法 46
4.　各言語母語話者による自立移動事象の言語表現の特徴 48
4.1　総合的比較 48
4.2　各移動事象概念の表出方法 55
5.　各言語母語話者による使役移動事象の言語表現の特徴 65
5.1　総合的比較 65
5.2　使役手段場面ごとの表現パターン 73
5.3　各言語母語話者による使役移動事象の言語表現の特徴 82
6.　各言語母語話者の移動表現に見られた特徴 83
7.　本書における比較方法 85

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 4 章　日本語母語話者の英語移動表現 87

1.　日本語母語英語学習者の移動表現の分析 87

2.　英語学習者による自立移動事象の言語表現 90

2.1　総合的比較 90

2.2　各移動事象概念の表出方法 95

2.3　英語学習者による自立移動事象の言語表現の特徴 103

3.　英語学習者による使役移動事象の言語表現 104

3.1　総合的比較 104

3.2　使役手段場面ごとの表現パターン 110

3.3　英語学習者による使役移動事象の言語表現の特徴 117

4.　英語学習者の移動表現に見られた特徴 118

第 5 章　日本語母語話者のハンガリー語移動表現 119

1.　日本語母語ハンガリー語学習者の移動表現の分析 119

2.　ハンガリー語学習者による自立移動事象の言語表現 121

2.1　総合的比較 121

2.2　各移動事象概念の表出方法 126

2.3　ハンガリー語学習者の自立移動事象の言語表現の特徴 140

3.　ハンガリー語学習者による使役移動事象の言語表現 141

3.1　総合的比較 141

3.2　使役手段場面ごとの表現パターン 151

3.3　ハンガリー語学習者による使役移動事象の言語表現の特徴 160

4.　ハンガリー語学習者の移動表現に見られた特徴 161

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 6 章　英語母語話者・ハンガリー語母語話者の日本語移動表現 163

1.　日本語学習者の移動表現の分析 163

2.　日本語学習者による自立移動事象の言語表現 165

2.1　総合的比較 165

2.2　各移動事象概念の表出方法 172

2.3　日本語学習者の自立移動事象の表現の特徴 189

3.　日本語学習者による使役移動事象の言語表現 190

3.1　総合的比較 190

3.2　使役手段場面ごとの表現パターン 198

3.3　日本語学習者による使役移動事象の言語表現の特徴 209

4.　日本語学習者の移動表現に見られた特徴 210

第 7 章　多元的比較 211

1.　比較の観点 211

2.　学習者言語に共通する特徴 212

2.1　非表示と省略 212

2.2　簡潔な表現および固定的組み合わせの使用 216

2.3　意味と形式の 1 対 1 対応 218

3.　学習者言語における母語の影響 221

3.1　様態の表出方法 221

3.2　ダイクシスの表出方法 224

3.3　1 節あたりの経路参照物数 226

4.　経路表示位置の類型と第二言語習得 227

4.1　非対称性の仮説 227

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

4.2　類型の習得以外の問題 232
5.　本研究の貢献 232

第 8 章　総括と言語教育への応用 235
1.　本研究の総括 235
2.　言語教育への応用 236
2.1　英語教育への応用 236
2.2　ハンガリー語教育への応用 240
2.3　日本語教育への応用 243
3.　今後の課題 248

あとがき 251
参照文献 255
索　　引 265
執筆者紹介 272

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第1章

序　論

1.　はじめに

人が歩いたり，物が落ちたりする「移動」を表す表現は，どの言語にも存在すると誰もが思うほどに，基本的で不可欠な表現である。それゆえ，移動を表す表現は，第二言語教育においても，多くの場合かなり初期の段階で導入される。

本書は，第二言語(L2)としての日本語・英語・ハンガリー語の学習者が，どのように事物の移動を表現するかを考察するものである。移動表現の習得は学習者にとって重要な課題であるが，それについての研究はいまだ不足している。本書では実験手法を用いて収集したデータに基づき，学習者が用いる移動表現の特徴を明らかにする。3 言語の母語(L1)話者がどのような移動表現を用いるのかを詳細に研究した結果と比較しながら，学習者の移動表現の中に，母語の表現や学習者共通の特性やストラテジーがどのように反映されているかを示す。さらに，各言語教育における移動表現の扱いについての現状を考察した上で，教育への提案を行う[1]。

本書の特徴は 3 つある。第 1 に言語の類型論的な比較に基づいている点である。類型論とは，言語のタイプに関する研究である。移動の言語表現には，諸言語において大きな相違点があることが知られている(宮島, 1984; Talmy, 1991, 2000; 松本, 2017a; Matsumoto, 2020a など)。特に日本語の移

[1] 本書では，母語という用語を，個人が幼児期に母親などの周囲の人々が話すのを聞いて自然に習い覚える最初の言語という意味で用いる。第一言語という意味でも用いる。厳密には，幼児期に獲得した母語を喪失し，別の言語が第一言語となるケースもあるが，本書ではこのような区別をせず，この 2 つを同義として扱う。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第2章

移動表現の類型論とその研究方法

本章では，移動表現の類型論に関するこれまでの研究を紹介し，本書の立場を述べる。その上で本書が考察する3つの言語の移動表現の概要を示す。また，移動表現に関するこれまでの第二言語習得研究を概観した上で，本書で採用する研究方法を概説する。

1. 移動表現の類型論

1.1 移動事象に関わる諸概念

第1章で述べたように，移動事象にはさまざまな概念が関わっている。それぞれの概念をより詳しく説明しておこう。移動事象には，移動物(Figure)，移動の経路(Path)，経路に関わる参照物(Ground)，移動の様態(Manner)などの概念が含まれている(Talmy, 1985)。たとえば，図1のように，瓶が洞窟から浮かびながら出てくる事象を描写する際，瓶が移動物であり，洞窟が移動の経路を定義する参照物である。経路とは，移動物が辿る道筋の特性のことで，それは参照物などとの位置関係から定義される。様態とは，移動する際の移動物の動作や様子のことである。

図1. 〈ボトルが洞窟から浮かびながら出てくる〉移動事象(松本，2017a参照)

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第3章

調査方法と日本語・英語・ハンガリー語母語話者の移動表現

本章では，本研究の調査目的と方法を示し，日本語・英語・ハンガリー語の母語話者の移動表現について，実験結果をもとに，それぞれの言語における特徴を示し，その差異をまとめる。その上で，学習者言語も含めた言語比較の方法を示し，以降の章の構成を示す。

1. 移動表現プロジェクト

1.1 移動表現プロジェクトの主旨

本研究は，国立国語研究所の共同研究プロジェクト『空間移動表現の類型論と日本語：ダイクシスに焦点を当てた通言語的実験研究』（研究代表者：松本曜）および『対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法：動詞の意味構造班』（研究代表者：窪薗晴夫，班長：松本曜）の一環として，プロジェクトで作成されたビデオ映像を用いて行われた。このプロジェクトは，これまでの研究で軽視されていたダイクシスの役割に注目することで，移動表現の類型論の新しい全体像を示すことを目的とし，イタリア語，英語，クプサピニィ語，シダーマ語，スワヒリ語，タイ語，タガログ語，中国語，ドイツ語，日本語，日本手話（JSL），ネワール語，ハンガリー語，フランス語，モンゴル語，ユピック語，ロシア語などの諸言語に関して調査を行っている。ビデオ映像を用いた言語産出実験を行うことで，同一の移動事象を各言語の話者がどのように描写するかを通言語的に調査し，各言語の移動表現の特徴を明らかにするとともに，言語表現の普遍性と類型の解明を目指すものである。各言語の母語話者を対象とした研究の成果についてはすでに一部が発表されており，全体像は Matsumoto（forthcoming）にまとめられる。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第4章

日本語母語話者の英語移動表現

本章では，日本語を母語とする英語学習者の移動表現について，その特徴を考察する。英語と日本語は，移動事象を表現する方法において大きく異なる言語であるが，日本語母語話者の英語での移動表現にはどのような特徴が見られるのだろうか。

1. 日本語母語英語学習者の移動表現の分析

第3章4.1節で見たように，日本語は経路を(準)主要部で表示する言語であるのに対して，目標言語である英語は経路を主要部外要素で表示し，主要部では様態や使役手段を表す言語であった。また，日本語はダイクシスを主要部で頻繁に表現するが，英語はダイクシスを *toward me* のように前置詞句で表現することが多い(第3章4.2.3節)。また日本語は，「駆け込む」のような複合動詞や「走ってくる」のようなテ形複雑述語を多く用いるという特徴も持つ。このように移動事象を表現する方法が大きく異なる英語を，日本語母語話者が第二言語として学ぶ場合，どのように母語が影響し，また，学習上どのような難しさが生じるのであろうか。そして，英語学習者はどのようなストラテジーを使って，各移動事象を表現するのだろうか。本章では，第3章1.2節で紹介したビデオ実験から得られたE-L2(j)とE-L1のデータに基づいて議論を進める。なお，実験の詳細についてはこの章では繰り返さないので，適宜第3章1～2節を参照されたい。

移動事象の表現は，日本の英語教育において，初期の段階から導入される非常に基本的なものである。小学校で使用される英語教科書にも，道を尋ねる場面が含まれており，(1)のような基本的な表現を学ぶ。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第5章

日本語母語話者のハンガリー語移動表現

本章では，日本語を母語とするハンガリー語学習者の移動表現について考察を行う。ハンガリー語と日本語は経路表示のタイプも，移動事象を表現する方法も大きく異なる言語であるが，日本語母語話者のハンガリー語での移動表現にはどのような特徴が見られるのだろうか。

1. 日本語母語ハンガリー語学習者の移動表現の分析

ハンガリー語の移動表現に大きく関連する2つの文法項目として動詞接頭辞および格接辞がある。これらはハンガリー語の文法体系の中核を担うものであり，ハンガリー語教育においては通常，初級前半の段階で導入される。それに伴い移動表現も扱われる。しかし，ハンガリー語の初級教科書は構造シラバスによるものが一般的であり（第8章2.2.1節参照），概念としての導入というよりは，文型練習を目的として導入される。移動表現の導入に先立ち，まず場所を表す3種の格接辞 *-bAn*（IN），*-(V)n*（ON），*-nÁl*（AT）が扱われる（第2章2.3節の脚注5参照）。その後，ダイクシス動詞 *jön* ‘come’，*megy* ‘go’ などとともに，方向を表す3種の格接辞 *-bA*（TO.IN），*-rA*（TO.ON），*-hVz*（TO.AT）が扱われ，それに続く課で，基本的な動詞接頭辞が扱われる，といった具合である。

第3章で確認したように，学習者の母語である日本語は，移動の経路を主要部（正確には準主要部）と主要部外要素の両方で表示する傾向のある言語である。それに対して，目標言語であるハンガリー語は，英語同様，経路を主要部外要素のみで表示する言語であり（第3章6節），主要部では通常，様態を表す。ただし，英語とは2つの点で異なる特徴を持つ。まず，英語

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第6章

英語母語話者・ハンガリー語母語話者の日本語移動表現

本章では，日本語を学ぶ英語母語話者とハンガリー語母語話者の2つの学習者群の日本語移動表現を比較し，考察する。学習者にとって，類型の異なる日本語での移動事象概念の表出に難しさはあるのだろうか。また類型を同じくする母語を持つ2つの学習者群の移動表現にはどのような共通点・相違点が見られるのだろうか。

1. 日本語学習者の移動表現の分析

第3章で見たように，日本語は経路を主要部(正確には準主要部)と主要部外要素の両方で表示する傾向のある言語である。それに対し，2つの学習者群の母語(英語・ハンガリー語)は，経路を主要部外要素で表すという点で共通している。ただし，経路の表示位置や表示頻度，ダイクシスに関わる表現の違いなど，それぞれに個別言語特有の特徴が見られる。つまり，これらを母語とする2つの学習者群を比較することで，学習者言語の移動表現の特徴が目標言語と母語の類型的な相違から生じるものなのか，あるいは類型とは別の，母語特有の特徴から生じるものなのかを検証することができる。

これまで，第二言語習得における日本語の移動表現については，類型が異なる英語を母語とする学習者の日本語移動表現が研究の中心で(Toratani, 2016など)，日本語母語話者の英語での移動表現とを双方向的に比較する研究も行われてきた(Brown & Gullberg, 2011など)。しかし，英語以外の言語を母語とする学習者に関しては研究が少なく，本章のように，日本語と類型の異なる言語を母語とする，複数の日本語学習者群(英語母語話者とハンガリー語母語話者など)の言語表現を比較分析することは，あまり行われてこ

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第7章

多元的比較

本章では，4つの学習者言語の多元的比較を行う。これまで見てきた学習者言語の特徴を踏まえ，全学習者のデータを比較し，学習者言語間の共通点と相違点，および類型の習得に関わる問題について議論する。

1. 比較の観点

第4～6章では，日本語を母語とする英語学習者の英語(E-L2(j))，日本語を母語とするハンガリー語学習者のハンガリー語(H-L2(j))，英語・ハンガリー語を母語とする日本語学習者の日本語(J-L2(e), J-L2(h))の特徴を見てきた。本章では以下の順に，これらの学習者データの比較を行っていく(第3章7節図30参照)。

まず，複数の学習者言語における移動表現を比較することにより，学習者言語に共通する特徴と母語などの影響による特徴を見分ける。母語，目標言語に関わらない共通した特徴が見られれば，それは中間言語としての一般的特徴，もしくは学習者が共通で用いるストラテジーの結果である可能性が考えられる。一方，学習者言語による違いがある場合は，母語における経路表示位置の類型やその他の特性の影響，あるいは目標言語に含まれる複雑性などの影響が考えられる。そこで，2節では学習者言語に共通する特徴について，3節では学習者言語における母語の影響について考察する。

次に行うのは，双方向的比較による類型の影響の考察である。本研究の調査は，2つの双方向的比較が可能となるように設計されている。すなわち，日本語母語話者の英語と英語母語話者の日本語との双方向的比較(E-L2(j) ⇔ J-L2(e))，そして日本語母語話者のハンガリー語とハンガリー語母語話

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第8章

総括と言語教育への応用

1. 本研究の総括

本書ではここまで，同一の言語産出実験に基づき，4つの第二言語学習者群の移動表現について，各目標言語の母語話者の表現との比較，学習者の母語での表現との比較，そして他の学習者群との比較を通して，移動表現の第二言語習得上の特徴を明らかにした。

第7章で詳述したように，第二言語習得研究で指摘の多い母語の影響というものが，移動事象の描写において，どの学習者に，どのような言語的側面で，どの程度観察されるのかを示した。そして，母語や目標言語によらない学習者に共通するストラテジーの存在と，それによって産出される学習者の表現の特徴についても考察した。

さらに，理論的な貢献として，経路表示位置の類型に基づく，第二言語習得上の非対称性の仮説を検証した。経路主要部表示型言語は，主要部と主要部外要素の両方を用いて経路を表し，さらにその方法は経路の種類によって異なるという複雑さがあるため，経路主要部外表示型言語の話者が学ぶ際には，その逆の場合よりも難易度が高いというものである。検証の結果，その仮説を支持する結果が得られた。ただし，日本語の経路表示の難しさに関しては，ダイクシス表出の多さと，それに伴うテ形複雑述語の使用による準主要部での経路表示といった，日本語特有の特徴が関わっていることも指摘した。

第二言語学習者の表現の特徴を，言語の類型の影響を中心に考察してきたが，各目標言語の教育の現状も考える必要がある。また，本研究により得られた知見を反映した各目標言語の言語教育への応用可能性を提案することも

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers